

公開講演会

歴史・人権・政治から見る 「市民参加」

在日朝鮮人美術史における「制度化」について



日本の戦後美術史のなかで、これまで「点」としか記録されてこなかった在日朝鮮人美術家たちの活動と作品を初めて歴史の「線」として描いた白凜氏をお招きし、在日朝鮮人美術家たちが自らの活動を通して、どのように政治や社会とかがわってきたのかを、「制度化」をキーワードに、歴史・人権・政治の各側面からご講演いただきます。

令和6年 **11** 月 **25** 日【月】

時 間 13:00～14:30

会 場 北海道大学大学院
メディア・コミュニケーション研究院4階
407会議室

司 会 渡部 聡子

メディア・コミュニケーション研究院 助教

申込み 二次元コードまたはWEBフォームから
お申し込みください
<https://forms.gle/zfFEk3YuGTUTA9S29>



講師

PEK Rum

白 凜 氏

同志社大学非常勤講師

島根県生まれ。朝鮮大学校（東京）教育学部美術科卒、東京藝術大学美術学部芸術学科卒。2020年3月に東京大学大学院総合文化研究科で博士号取得（学術）。日本学術振興会特別研究員PDを経て現職。2016年より一般社団法人在日コリアン美術作品保存協会代表理事も務める。

主な著書に『在日朝鮮人美術史1945-1962—美術家たちの表現活動の記録』（2021年、明石書店）がある。2021年に文凡網（著）『平壤美術』を青土社から翻訳出版した。